

# 北のとびら

特集

劇作家・演出家 柴幸男インタビュー

「演劇すること」は  
誰もが楽しめる「遊び」

この人に注目

岡田 敦

vol. 103

平成27年1月



HOKKAIDO  
ARTS FOUNDATION

アートの子カラを考える  
国際文化交流レポート

街歩きアート

新たに誕生した施設、グループ、  
文化・芸術が人をつなぎまちを創る  
[当麻町]

フォト・エッセイ  
近藤 良平

表紙作家の紹介  
久野 志乃



●特集／劇作家・演出家 柴幸男インタビュー

# 「演劇する」と「遊ぶ」は 誰もが楽しめる「遊び」



平成26年10月19日、東神楽町立志比内小学校の学芸会で、1年生から6年生までの全校児童10名が参加して50分の演劇作品『宇宙から来た転校生』を発表しました。指導にあたったのは、平成22年に『わが星』で岸田戯曲賞を受賞した劇作家・演出家の柴幸男さん。柴さんに、子どもたちとの延べ13日間の芝居づくりと、「演劇を伝えること」にかける思いなどについて伺いました。

## 「学芸会的なお芝居」から自由になると「うん」と

志比内小学校は、全校児童が10名という小さな学校です。今回の13日間のワークショップは、学芸会で発表する全員参加の劇を作るお手伝いでした。脚本は子どもたちの意見を入れながら先生が書いて、僕はシーンの整理についてメールでアドバイス。9月には台本が完成し、ワークショップが始まった10月には、子どもたちはセリフが全部入っている状態でした。

まず取り組んだのは、決められたセリフを前を向いて大きな声で喋る、いわゆる「学芸会っぽい演技」を崩すこと。舞台から体育館の床に降りて、彼らのいつもの空間・距離感でセリフを喋ってもらって体験から始めました。それだけで、随分と変わるんですよ。

僕らは自分で思っているよりも、声や身体が色々なものにとらわれています。「舞台上で前を向いて喋ってしまう」ことも、早口になることも、自分がそうしたいと思ってしまうのでなければ「不自由」です。練習したり意識することで、自分の思うように動いたり声を出したりできるようになる。そのことを知ってほしいと思いました。

そして、演技するときには「伝えるという意識を持つこと」が大切だと教えました。学芸会ではセリフを言う、声を出す、ということに集中しがちだけれど、観ている人に意味や意図が伝わらないと、劇は成立しない。また、「きちんと聞く」ということも大事です。例えば「えー」「かわいそう」といった何気ないリアクションも、物語の流れの中で発せられる相手役のセリフをきちんと聞いてキャッチしていればこそ、自然な反応となります。

今回は体育館という声の伝わりにくいスペースでの発表なので、必

柴幸男(しば ゆきお)  
劇作家・演出家・ままと主宰

1982年、愛知県出身。「青年団」演出部所属。「急な坂スタジオ」レジデント・アーティスト。日本大学芸術学部在学中に『ドドミノ』で第2回仙台劇のまち戯曲賞を受賞。2010年『わが星』にて第54回岸田國士戯曲賞を受賞。何気ない日常の機微を丁寧にすくい取る戯曲と、ループやサンプリングなど演劇外の発想を持ち込んだ演出が特徴。全編歩き続ける芝居『あゆみ』、ラップによるミュージカル『わが星』、一人芝居をループさせて大家族を演じる『反復かつ連続』など、新たな視点から普遍的な世界を描く。2013年、2014年と小豆島で『お散歩演劇』を滞在制作するなど、近年は「その時、その場所で、その人たちとしかできない演劇」「観客が自然な状態で楽しめる演劇」を創造。またワークショップも精力的に行っている。現在「ままと」HPで過去の戯曲を無料公開中。  
www.mamagoto.org



学芸会を目前に控え、演出を確認する柴さんと子どもたち。写真は冥王星人の転校生が小さくなってしまい(中央の青い人形)、驚きうろたえる場面。「その動きいいね!」という柴さんの声に、子どもたちの笑顔がはじけます。

然的に前を向いてセリフを言うシーンは多いのですが、それでも「伝えようとしている」「セリフをキャッチして反応を返している」ということはわかる仕上がりになったと思います。

### 完成度ではない尺度で「よい演劇」を作る

近年は、月1回くらいのペースでアウトリーチやワークショップをやっています。また、週に1回、名古屋の外語大学の学生に演劇を教えています。

演劇のやり方を、まだ知らない人に教える仕事は楽しいですね。「ここで工夫すると面白いよ、ここがやりがいのあるところだよ」ということを順序立てて伝えていけば、劇づくりは誰にとっても楽しいことなのだと思わなくてはなりません。

また、各地のワークショップなどでの演劇づくりを通して、「その場のその人たちの感覚が生きたもの」

が生まれていけばどんな演劇でもアリだな、と思うようになりました。以前は、演劇は高い完成度を目指すべきだし、話が凝っていたり、社会性があつたり、そういうものが必要だと思っていました。けれど「味のある歌い方」という評価があるように、演劇にも完成度とは違う尺度がある。そして、欠けているものがあつたとしても、ポイントを押さえて意図が伝わるようにすれば、演劇として面白くできる。それが自分の中でやっとわかってきました。

この「完成度とは違う尺度で演劇を作るための方法」を伝える職業ができたなら、僕はそれを専門にやってもいい(笑)。自分の作品を多くの人に観せることもやりたいことですが、点々と演劇をできる人を増やしていくことのほうが、価値としては高いように感じます。

### 自由に楽しい演劇づくりその方法を広く伝えたい

僕が主宰する「ままごと」では、ホームページ上で戯曲を無料公開する「戯曲公開プロジェクト」を行っています。これは、僕は「演出家」

あるいは「作・演」として見られることが多いのですが、「劇作家でありたい」「時代を越える強さを持った脚本を書きたい」という意志の表明です。書いた戯曲が上演されない、劇作家とは言いがたい。ですからその機会を増やそうと考えました。

実は、そこからの新しい構想として、僕が書いた新作の戯曲を、全国の劇団・団体に同時上演してもらう企画を温めています。プロの劇団、学生演劇、市民劇、それぞれ色々なバージョンの作品を作っ



志比内小学校は大雪山系最高峰の旭岳を間近に望む、のどやかな田園地帯にあります。児童の多くは山村留学です。

てもらえたら面白いな、と思って。

今回のワークショップもそうですが、地方に長期間滞在して、その土地の関係性の中で作品を作る経験を重ねてくると、ある都市で作品を上演して3日間で次の都市に行く、というようなツアーをするにはあまり興味が持てなくなりました。一つの作品をより多くの人に観せようとするよりも、僕の演劇に対する考え方を知ってもらったり、演劇を通して新しい出会いができる仕掛けを作ることのほうが面白いと感じるんです。

「演劇の作り方や演出の考え方を伝える」という点では、演劇を作り始めた人たちの参考になる、マニュアルのようなものを作りたいと考えています。小説なのか、あるいは戯曲なのか、まだわかりませんが、なんらかの形にして、「演劇はもっと自由に楽しくできる」ということを伝えたいと考えています。

演劇は、観るよりもやるほうが面白いものです。劇とは気軽にやれるものだ、ということ伝えてハドルを下げて、全国民が歌うように気軽に演劇をやるようになればいいですね。

※東神楽町立志比内小学校で行われた「楽幸男ワークショップおよび成果発表」は、北海道文化財団「アート体感教室事業」として実施しました。

### 特集／劇作家・演出家 柴幸男インタビュー

### ワークショップと成果発表を終えて .....



#### 教えたかったこと、教わったこと

柴幸男さん (劇作家・演出家)

大切なことは2つ。人に自分の言葉と意識をしっかりと届ける、人の言葉や意識をしっかりと受け取る。それさえできれば面白い演劇は誰にでも作れる。それが僕の教えたかったこと、そしてあらためて僕が教わったことです。今後、全国各地のワークショップで僕は彼らのことを紹介するでしょう。たった10名の小学生が50分の演劇を上演した。これは驚くべきことです。でも、いつか当たり前のことになったらいいと思うのです。そのために僕はあらためて「演劇は誰にでも作れる」と伝えていきたいと思えます。

#### アドリブに子どもたちの個性が輝く

脚本を担当した本間寛太さん (志比内小学校教諭)

今回の芝居づくりでは、柴さんの声かけで、子どもたちは自然なアドリブができるようになりました。アドリブの楽しさ、そしてアドリブで動くためには「この場面では自分だったらどう反応するか」と想像し続けること、この2つのおかげで50分という長い芝居を、集中力を切らさずに演じることができました。また、例えば「遊ぶ誘いを断る」というシーンで、ある子は謝るしぐさをしながら断ってみせた。このように、それぞれの子どもの個性がアドリブの中で発揮されており、まさに「参加者全員が輝く芝居」となりました。



『宇宙から来た転校生』発表風景



## r



光州空港での歓迎風景



交流展会場の国立光州博物館



「芸術の通り」は展示会の告知がいっぱい



「順天の民俗村」の城壁に上って

昨年11月、北海道のアーティスト12名が、韓国南部の150万人都市の光州(クワンジュ)を訪れ、光州のアーティスト12名と展示会を通じて交流した。

これは北海道文化財団と光州文化財団とで、演劇につき美術分野での交流を推進することになったためで、一昨年の韓国側作家来日に応える訪韓だ。北海道からは油彩、日本画、彫刻、陶造形、インスタレーションの分野で活躍する現代美術作家が参加した。

クワンジュ空港に着いてビックリ！韓国作家が大きな横断幕で熱烈歓迎。最初からテンションが上がることとなった。名古屋と同緯度のクワンジュは、イチヨウの黄葉が日の光に揺れ秋の深まりを予感させる街だったが、歓迎の熱気が心を温かくする。

展示会場は、国宝「双獅子石燈」が鎮座す

る国立光州博物館のホール。海外で作品設置をする際にならず突発するいくつかの難題は、韓国作家がすべて解決。その超人的な活躍とやさしい心配りに感服。いちばん緊張と期待が入りまじる展示の場面で、信頼が形になる瞬間に立ち会った気がした。カムサハニダ(感謝々々)。「食の光州」の食文化も堪能。

オープニングセレモニーでは、作家を代表して阿部典英さんが、東日本大震災やセウォル号事故で両国民がお互いに寄せる哀切の情に触れ、文化交流を通して近くて近い国の友好の絆を一層深めたいと述べた。

展示会を「光州ビエンナーレ」の期間内に設定してくれたおかげで、世界的に評価されているアジアの大先輩のビエンナーレも観覧。国策で立ち上げ今年で10回目「Burning down the house」敷地を燃やせ」という挑発的テーマ

で、創造的破壊をうながす展示だった。札幌国際芸術祭が産声をあげた年に観覧できたのは、作家にとって刺激的なことだった。

豊臣秀吉の朝鮮侵攻を防いだという昔ながらの城壁に囲まれ、柿がたわわに実った順天の民俗村で、パンソリ(語り唄)を聴き、踊りを観た。華やかな色彩の民族衣装をまとった芸妓のたおやかな手の動きが、悠久の時空へ誘ってくれた。

百済の国は、日本とも歴史的に深いつながりと因縁がある。親密であった遠い記憶が未来へ向けてよみがえってほしいと願う。

わたしは20年あまり触れ合うソウルの友人がいるが、海外に美術を通して敬愛する存在があることは大きな幸せである。国と国とが親密になる一歩を光の街クワンジュでも刻んだ。

## 光の街クワンジュ — 韓国光州美術交流展の旅

美術家 柿崎 熙

## 岡田 敦

Atsushi Okada

この人に注目【写真家】



※ユルリ島は北海道の天然記念物に指定されており、島への無断上陸は禁止されています。本作品は根室市から島の環境及び動植物の調査、研究のため撮影を委託されたものです。

ユルリ島 2014年

無人となった島に残され、高齢化していく馬たち。瓦礫が浮かぶ震災後の海。リストカットの跡が残る身体。克明な出産シーン。人が無意識に目をそらしがちなものを正面から見つめ、生と死の哀しさ美しさを切り取ってきた写真家、それが岡田敦さんです。

根室市の沖合に浮かぶユルリ島の馬に興味を持ったのは、2010年頃。立ち入り禁止のため一度は撮影を断念しましたが、東日本大震災を機に「失われる前に撮るべきものがある」との思いに駆られて再交渉。環境調査という形での撮影許可を得て、2011年の夏以降、年2〜3回の撮影を行っています。

近年は野付半島など道東の風景の撮影も行っている岡田さん。「これまでの風景写真によるイメージを変えていきたい」とのことで、海外からも注目される気鋭の写真家による「新しい北海道の風景」の発表の日が待たれます。

岡田 敦 (おかだ あつし)

1979年、北海道生まれ。富士フォトサロン新人賞受賞。第33回木村伊兵衛写真賞受賞。平成26年度北海道文化奨励賞受賞。大阪芸術大学芸術学部写真学科卒業。東京工芸大学大学院芸術学研究科博士後期課程修了、博士号取得(芸術学)。写真集に『I am』(赤々舎)、『ataraxia』(岡田敦、伊津野重美、青幻舎)、『世界』(赤々舎)、写真集『MOTHER』(柏倉舎)などがある。



世界 2012年

作品展示予定

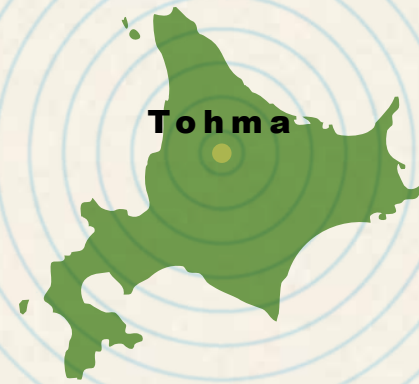
「もうひとつの眺め—北海道発：8人の写真と映像」  
会期：平成27年1月31日(土)〜3月22日(日) 休館日：月曜  
会場：北海道立近代美術館 展示室B(札幌市中央区北1条西17丁目)  
問い合わせ：北海道立近代美術館 ☎011-644-6882

岡田敦写真展「MOTHER 開かれた場所へ」  
会期：平成27年2月14日(土)〜2月28日(土) 休館日：要確認  
会場：CAI02(札幌市中央区大通西5丁目昭和ビルB2)  
問い合わせ：CAI02 ☎011-802-6438

新たに誕生した施設、グループ、文化・芸術が人をつなぎまちを創る

【当麻町】

上質な一等米に、皮が真っ黒な高級ブランド「でんすけすいか」。大雪山の麓に位置し、道内でも有数の農業のまちである当麻町は、かつては林業が盛んなまちとしても知られていました。人口約6800人のこのまちで、今、文化・芸術によるコミュニティづくりが始まっています。



龍が浮かぶ木の館 (やかた)

当麻町公民館まともーる

足を一步踏み入ると、ふんわりと漂う木の香り。平成26年4月、老朽化した文化センターと福祉会館に替わって誕生した公民館「まともーる」は、内装や備品などの約93パーセントにシナ、ニレ、ミズナラなどの地元の木材を使用しています。林業活性化や建築時のCO2削減にも貢献したとして、木材利用優良施設コンクールでは林野庁長官賞に輝きました。ホールは平面として利用できるほか、可動式の観覧席300席に加えてスタッピングチェア200席の配置も可能。式典や講演会などのほか、演劇や音楽会での利用にもふさわしい機能を備えています。ホール内部にも地元材がふんだんに使われており、音響的にも良い効果があるほか、明るくやわらかな雰囲気を出しています。



地元の木材の木造フレームと内装材が使われた「ばんりゅうもーる」

館の前面は、床から天井まで木材を使用したフリースペース「ばんりゅうもーる」。イベント時には外の駐車場と一体化して使うことも可能な空間です。昼は、樹齢150年のミズナラで作った大きなテーブルの周囲にまちの人たちが集まって、くつろいだり、おしゃべりしたり。夜には「とうま蟠龍まつり」で使用される龍踊りの龍と当麻蟠龍太鼓がガラス越しに浮かび上がって、幻想的な風景を創りだします。まちを象徴する新しい施設「まともーる」。当麻町民の交流拠点となることが期待されています。



電動式の観覧席を完備したホール

●上川郡当麻町3条東2丁目  
☎0166-84-2111 (当麻町教育委員会)



町役場に隣接する「まともーる」が夕景に美しく浮かび上がる

まちと心に、いつでも音楽を!  
とうま音楽工房

地元有志で結成された、音楽イベントの企画集団「とうま音楽工房」。東日本大震災からの復興の象徴である「奇跡の一本松」で作られたヴァイオリンでのクラシック・コンサート開催の打診を受け、その実行委員会を立ち上げたのが結成のきっかけでした。メンバーの活動により、平成26年9月、札幌交響楽団のコンサートマスターである大平まゆみさんを迎えてコンサートを開催。会はこのときだけの活動になる予定でしたが、「『クラシック音楽ってこんなにいいものだったのか』という声や、涙を流して聴いている人の様子を見て、『続けなくては』と思ったんです」と事務局長の弘中芳春さんは言います。これは町内初のクラシック・コンサートでもあり、音楽の素晴らしさをまちの多くの人が実感した出来事でした。



とうま音楽工房  
弘中芳春さん

以降、会は「まともーる」の有効利用を考える企画集団に変身。音楽を中心としたイベントや会場利用を増やすことで「まちに人を呼び込む効果も期待できる」と弘中さんは言います。「まともーるに来れば何かやっている、そう思われるような場所にしたいですね」。今後はクラシック音楽以外のライブなども企画していくとのことです。

●上川郡当麻町3条東2丁目  
☎0166-84-2111  
(当麻町総務企画課 まちづくり推進室内)



札幌でコンサートマスターを務める、ヴァイオリニスト・大平まゆみさんを迎えた、「まともーる」でのコンサートの様子



人をつなぎ、おしゃべりなアートたち

かたるべの森美術館

あふれる色の洪水と、自由で迷いのない線。ポップでカラフルなアートが並ぶのは、元小学校の教室だった展示室です。ひとつひとつの作品は、どれもおしゃべりしているみたいに賑やかで、こちらに話しかけてくるよう。これらのアートを制作したのは障がいのある人たちで、ここは彼らの芸術活動の拠点として、制作工房と展示施設の機能を備えています。全国で4番目、北海道では初の障がい者の作品を常設展示する美術館として、平成22年にオープンしました。

職員の石黒康太郎さんは、「ただのいたずらのように見えても、表現として優れている場合があります。それを見つけ出すのが、私たちの役割」と話します。近郊在住のアーティストがアドバイザーとして制作や展示に関わるなど、クオリティを高めていく試みも行っているそう。「障がい者の作品だから素晴らしい、という目線ではなく、作品として見ておもしろいか、心を打つかだと思うんです。だめなものだめだし、いいものはいい。障がいがあることが特別ではないはず」。

そしてアートは、創る側も見る側も、今までつながることのなかった人とつながることができる手段となり得る、と石黒さん。それがこの美術館の、最大の役割なのかもしれません。



陶芸作品の展示の様子。ボール状の焼き物に、隙間なく鮮やかな色のアクリル絵の具を塗り、積み上げた作品 (2014年冬「あったからふる立体展」より)



かたるべの森美術館  
石黒康太郎さん  
「とうま音楽工房」にも所属

館を代表するアーティスト・佐々木伸夫さんの3000体のネコ(陶芸)と、ダンボールアートのコラボ作品 (2014年冬「あったからふる立体展」より)



●上川郡当麻町伊香牛2区 (旧伊香牛小学校)  
☎0166-84-2880  
◎開館時間 10:00~17:00  
◎休館日  
月曜 (祝日のときは翌日) 1月~3月まで冬季休館  
※チャリティーかたるべプラス (0166-58-8070) に連絡の上、見学可  
◎入館料 300円  
<http://www.katarube.jp>

## 表紙作家の紹介



氷のカーテン

久野 志乃 美術家

Shino Hisano

1978年 北海道様似町生まれ/札幌市在住

- 【個展】
- 2013年 道銀芸術文化奨励賞 久野志乃作品展  
北海道銀行らいらっくギャラリー/札幌
  - 2012年 『飛ぶ鳥のはなし』ギャラリー門馬/札幌
  - 2008年 『物語の終わりに、』TEMPORARY SPACE/札幌

【主なグループ展】

- 2014年 『真実在何方 Reality is somewhere out there』  
Crane Gallery/高雄・台湾
- 2012年 『札幌美術展 パラレルワールド冒険譚』  
札幌芸術の森美術館/札幌
- 2012年 『とびら展』北広島市芸術文化ホール/北広島
- 2012年 『UTSUROI』Centro de historias/サラゴサ・スペイン
- 2011年 『500M美術館』札幌市地下歩道/札幌
- 2011年 『アートプラネット2011』JRタワープラニスホール/札幌
- 2011年 『AIR3331』3331アーツ千代田/東京
- 2010年 『FABRICATION』room11/札幌
- 2010年 『日常にアートを。』ギャラリー門馬/札幌
- 2008年 『FIX・MIX・MAX!2』宮の森美術館/札幌
- 2008年 『かるいからだ』ギャラリー法邑/札幌
- 2007年 『絵画の場合』ポルトギャラリー/札幌

- 2007年 『札幌美術展2007』  
札幌市民ギャラリー/札幌
- 2006年 『具象の新世紀展』  
北海道立近代美術館/札幌
- 2006年 『風景画展』  
時計台ギャラリー/札幌
- 2001年 『Select space おなか』  
大同ギャラリー/札幌
- 2001年 『あいまいなあいま』This is gallery/札幌



【滞在制作】

- 2014年 アーティストインレジデンス in Stary Sacz /  
スタリソッチ・ポーランド
  - 2011年 レジデンスプログラムAIR3331 3331アーツ千代田/  
東京
  - 2007年 S-AIRアワード:アーティスト海外派遣プログラム2007  
stock20/台中・台湾
  - 2005年 「南の家、北の家」前島アートセンター/沖縄
- 【その他の制作】
- 2013年 第8回札幌国際短編映画祭(SSF2013)公式ビジュアル  
ポスター絵画制作

◎北海道文化財団アートスペース企画展

久野志乃展「あたらしき島」

会期:平成27年1月8日(木)~3月10日(火) 9:00~17:00

休館日:土・日・祝日 ※都合により臨時休館する場合があります。

会場:北海道文化財団アートスペース(札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)

入場料:無料



世界とその半分へ



レモン雲

## フォト・エッセイ⑦

文/写真 近藤 良平 Ryohei Kondo



## 今年も行くのだ

北海道に初めて訪れたのは、20代になってから。その時、たくさんの大きな風景を見ては、なぜか「懐かしい!」と思った。僕は、小さな頃、南米アルゼンチンに住んでいて、その頃は家族とよく旅行にいった。郊外にはパンパと呼ばれてる高原があり、ものすごく風景が広い。そこでその風景を絵に描くのはとても簡単である。画用紙に横一本線をかいて、その一方所に、小さな点々を無数にかく。それでおしまい。ちなみに点々は、遠くにいる牛たち。まさしくそれと同じ風景に北海道では遭遇する。



近藤 良平  
(こんどうりょうへい)  
ダンサー・振付家・コンドルズ主宰

1968年東京都出身。ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞。NHK「サラリーマンneo」、NHK連続テレビ小説「てっぺん」オープニングなど振付・出演。野田秀樹演出、NODA MAPの舞台「THE BEE」で役者デビュー。桜美林大学、横浜国立大学、立教大学非常勤講師。著書に『近藤良平という生き方』(エンターブレイン)、『からだと心の対話術 14歳の世渡り術』(河出書房新社)がある。北海道文化財団アート体感教室事業のアーティストとして、道内各地の子どもたちとワークショップを行っている。愛犬家。

北海道を訪れる。子どもたちとダンスのワークショップを行い、わいわい騒いで、元気になる。東京では、たくさんの人たちが踊っているが時々なんか悲しそうにみえる。どうしてだろう。「踊りは楽しい!」の原点には、きっと広い風景と牛たちに関係があるようだ。そしてまた、今年も、ふらつと北海道へ行くのだ。

まちの文化創造事業

●2015永遠にあかるく音楽会  
合唱劇「森は生きている」

日時:平成27年2月15日(日)14:00開演(13:30開場)  
会場:北斗市総合文化センター「かなでーる」  
(北斗市中野通2丁目13番1号)  
入場料:一般1,000円  
高校生以下500円  
(当日券は200円増し)  
問い合わせ:前田 治  
☎0138-75-2986  
※託児室あります。(おやつ代100円)



●あさひサンライズホール開館20周年記念事業・  
市民参加型演劇製作事業

日時:平成27年3月7日(土)14:00開演(13:30開場)  
会場:あさひサンライズホール  
(土別市朝日町中央4038)  
入場料:前売1,000円 当日1,500円  
問い合わせ:あさひサンライズホール  
☎0165-28-3146



平成25年度作品「君の先」

文化の宅配便事業

●木管五重奏団ウインドアンサンブル・ポロゴ  
松前公演

日時:平成27年2月7日(土)  
13:30開演(13:00開場)  
会場:松前町立松前中学校体育館  
(松前町字博多265)  
入場料:無料  
問い合わせ:松前町教育委員会 学校教育課  
☎0139-42-3060



北海道舞台塾事業

●希望の大地の戯曲「北海道戯曲賞」  
大賞・優秀賞作品リーディング公演

前田司郎(五反田団主宰)の演出により、大賞「悪い天気」  
(作:藤原達郎)と優秀賞「乗組員」(作:島田佳代)の2  
作品を、リーディング形式で上演します。  
日時:平成27年2月12日(木)、13日(金)  
「乗組員」15:30開演 「悪い天気」18:30開演  
会場:かでの2.7 かでのホール(札幌市中央区北2条西7丁目)  
入場料:一般 1作品1,000円 2作品共通券1,500円  
問い合わせ:北海道舞台塾実行委員会事務局  
☎011-272-0501

アートシアター鑑賞事業

●アステリズムコンサート 長万部公演

日時:平成27年2月20日(金)  
18:30開演(18:00開場)  
会場:長万部町学習文化センター  
(長万部町字長万部411-216)  
入場料:大人1,000円  
子供(高校生以下)500円  
親子券(大人1名+子供1名)1,200円  
問い合わせ:長万部町教育委員会 社会教育グループ  
☎01377-2-2748



北の元気舞台

●劇団「川」(江別市)  
『凍原の風』

日時:平成27年2月15日(日)  
14:00開演(13:30開場)  
会場:かでの2.7 かでのホール  
(札幌市中央区北2条西7丁目)  
入場料:一般2,000円 学生(中学生以上)1,000円  
(当日券は500円増し)  
問い合わせ:劇団「川」制作 村本 ☎090-1647-0269



●砂川市民劇団「一石」  
一部『穴に集えば』/二部『手紙』

日時:平成27年2月14日(土)  
14:30開演(14:00開場)  
会場:釧路市民文化会館  
(釧路市治水町12-10)  
入場料:一般1,000円  
高校生以下500円  
問い合わせ:NPO法人ゆう ☎0125-54-3111



●沼田町開拓120周年記念事業  
ミュージカル 僕のみつけた地球  
～沼田化石物語～

日時:平成27年3月15日(日)  
14:00開演(13:30開場)  
会場:生活支援型文化施設  
コンカリーニョ  
(札幌市西区八軒1条西1丁目  
ザ・タワープレイス1F)  
入場料:一般1,000円 学生(高校生以下)500円  
(未就学児 無料)  
問い合わせ:沼田化石物語実行委員会事務局(社)  
☎090-2055-6152



北海道文化財団 20周年記念事業

赤れんがダンス・演劇

会場:北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)2階 1号会議室  
(札幌市中央区北3条西6丁目)  
入場料:無料 問い合わせ:(公財)北海道文化財団 ☎011-272-0501

▷ダンスユニット「オトコカオル」

日時:平成27年2月15日(日)  
①13:00開演(12:30開場)  
②16:00開演(15:30開場)  
出演者:林英貴、山田恭也、  
浜田純平、加藤正汰郎



▷演劇+コンテンポラリーダンスユニット「鳥坊主」

日時:平成27年3月1日(日)  
①13:00開演(12:30開場)  
②16:30開演(16:00開場)  
出演者:柴田智之(俳優)  
東海林靖志(ダンサー)

